

開心術後患者の訴えについての検討

目的：開心術後の患者は他科術後の患者と比べると、身体症状などの訴えが多いように感じる。そこでどのような訴えがあるかを調査し、訴えに対する看護介入と今後の課題を見出すことを目的とし、検討をしたので報告する。方法：抜管当日の患者の発語や行動を看護記録から収集し、カテゴリー（年齢別、男女別、予定・緊急手術別）に分け、t検定を行う。期間は平成25年1月～とし、同年9月までデータを収集することとする。結果：開心術後の訴えは、口喝、創痛、悪心・嘔吐の順に多く、訴え全体の約3～4割の患者に認めた。カテゴリー別に見ると、年齢別と予定・緊急別で有意差があった。考察：開心術後は手術侵襲により口喝などの口腔内不快感を訴える患者が多いのではないかと考えられる。水分摂取だけでなく、口腔ケアや唾液分泌を促進させるケアも必要と考える。創痛については、痛みを訴えられる患者だけでなく、訴えられない患者もいる。落ち着きがなくなる、バイタルサインの変動がみられる、などの症状を観察し、鎮痛剤の投与や安楽な体位を工夫する等の関わりを行っていく。また痛みの訴え方は様々であり、今後は疼痛スケールの使用など、看護師が統一した観察の視点で介入できるよう検討していく。悪心については、腹部状態や薬剤の使用など、悪心が起きやすい状況のアセスメントを行い、苦痛緩和に努めていく。結語：様々な視点で患者を観察し、訴えから患者の体験している世界をくみ取り、今後の看護介入に生かす。今後は上位に挙げた訴えについて個々に調査していく必要がある。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号